

2015年度 第一四半期 決算説明会 <質疑応答要旨>

開催日：2015年7月30日

出席者：専務執行役員 主計部長 高畑 恒一

インベスターリレーションズ部長 大山 暢郎

第一四半期の利益は一過性除いても強い数字だが、非資源ビジネス(特に鋼管ビジネス)の状況と見通しは？また、資源ビジネスも含めた全体としての通期見通しは？

輸送機・建機、メディア関連のビジネスが順調。鋼管ビジネスは、リグ数の推移を参照するに、回復に時間を要するとみており、期初想定よりも若干下振れる可能性がある。

資源関連は、為替やコスト改善・数量増加によるプラス要因もあるが、市況価格下落によるマイナス要因もあり、通期で見れば後者の影響が若干強く出てくるのではないかとの見通し。

全体感としては、当初想定に対するプラス要素とマイナス要素を総合すると、通期予想2,300億円は達成出来るとみている。

第一四半期のキャッシュ・フローが強い背景は？

ジュピターテレコムからの配当金が前年同期比増加。同社の決算期変更により、前年同期の配当は3ヶ月分のみであったもの。また、マンション販売によるキャッシュの回収が多かったことや、鋼管ビジネスを中心に、市況に応じた在庫調整等による営業債権の減少によるもの。

前年同期に比べ、持分法投資利益は全体的に底上げされていると捉えてよいか？

ミャンマー通信事業やインドネシアの商業銀行といった新規連結によるものもあるが、J:COM や流通関係が順調であり、メキシコの完成車製造事業やインドネシアの銅事業が改善している。

資源価格が一段と下がってきているが、資源案件の減損リスクはどうか？また、資源案件への取り組み方針に変化はあるか？

現時点での中長期価格見通しを踏まえて、現時点では減損の必要はないとの判断に至っている。今後、各案件の事業計画に変更がある場合は、その時点の市況価格も踏まえて、改めて減損の必要性を確認する。

資源案件への取り組みについては、中期経営計画の中での基本方針に変化はない。マダガスカルのカリニウムプロジェクト、チリの銅プロジェクトの起ち上げに注力する。

アンバトビー;完工に向けた状況と完工後のプロジェクトに対する貴社のスタンスは？

残る完工要件は2つ（財務関連；ファイナンスの元利返済に備え、プロジェクトの口座に一定額を積む。法務関連；銀行への担保提供に係わる土地登記等。）となっており、今年9月末の完工期限に向けて取り進めていく。

完工すると、スポンサーの完工保証が外れる。他方、パートナーである SNC-Lavalin の5%持分につき、オプションが行使される可能性がある。この場合の相手先は Sherritt と当社になるが、Sherritt が引き受けない場合、当社が最大で5%を引き受ける可能性がある。

当社エクスポージャーの観点からは、約8億ドルの保証が外れることによる減少の一方、SNC-Lavalin のオプションに係わる増加の可能性があるが、ネットするとある程度減ることになると見ている。

完工後のプロジェクトに対する当社の向き合い方については、様々なシナリオが想定されうるが、まずは完工を成し遂げることが肝要。現時点で何か決まっていることがあるわけではない。

サンクリストバル;年間見通しに対する進捗率が低いように見えるが、事業の状況はどうか？

生産は順調に推移しているが、船積みの関係で販売が期ズレしたことにより進捗が遅く見えているもの。通期で見れば計画通り進むと認識している。

MUSA ; 輸出用港湾の契約を破棄した背景は？

足許の鉄鉱石価格を踏まえ、今年度はブラジル国内の販売に専念することにしたもの。

**タイトオイル／シェール事業；年間計画に対して順調に推移していると見てよいか？
(特殊要因は含まれていないか？)**

前期の減損により償却負担が軽くなっており、足許の市況に対する耐性がある。新規開発は行っていない。

TBC ; 足許の状況は怎么样了なっているか？

小売部門の建て直しに注力してきており、数字の面でも改善の兆しが見えてきた。翌四半期以降の数字も確認のうえ、TBC の新中期経営計画に沿って改革を進めていく。

以上